

実践**在日インドネシア人生徒とその保護者のための
高校進学情報提供バイリンガル Web サイトの構築**

佐々木 良造 (秋田大学)

助川 泰彦 (首都大学東京)

実践の場の特徴

茨城県東茨城郡大洗町にはインドネシア人移住労働者が集住しコミュニティを形成している。彼らの日本語能力は吹原・助川(2012)の OPI による調査によって、ほとんどが初級であることがわかっている。一方、コミュニティ内では移住第2世代に当たる子どもたちが成長し、高校受験に直面している。こうした状況から高校進学情報のニーズはあるが、日本語習得が進まない保護者にとって、日本の教育制度を理解するのは困難である。高校進学を目指す子どもは進路に関して保護者に相談し、助言を得ることを願っている(佐々木他 2016)が、保護者の日本語能力が低いため、まず、日本の高校進学について子どものほうから説明を行う必要がある。また、保護者と子どもの世代による高校進学経験の違い(インドネシアと日本)も情報の格差を生み出している。

実践の目標

本実践は、子どもとその保護者との高校進学に関する情報の格差を埋めるとともに、日本の高校進学についての暗黙知を伝えることを目指す。そのために、保護者にはインドネシア語で、子どもにはやさしい日本語で高校進学情報を提供するバイリンガル Web サイトを構築し、高校進学情報の提供することによって、より良い進路選択実現の一助となることを目標とする。

具体的な実践の内容とその過程

2016年1月、3月、2017年3月に、高校1年生7名および高校受験予定の中学3年生1名にインタビューを行い、受験に必要な情報は何かを尋ねた。インタビューをもとに高校進学に関する基本的な事項の説明の日本語版を作成し、それをインドネシア語に翻訳した。

目標の達成度と今後の課題

現在 Web サイトを通じて高校進学情報の提供を始めたところである。今後、在日インドネシア人の子どもとその保護者に Web サイトの有用性についての評価とさらに必要な情報の要望を求め、情報を蓄積していくとともに、問題点の修正を行っていく予定である。

付記1

本実践は吹原豊(福岡女子大学), Ni Nengah Suartini(Universitas Pendidikan Ganesha), 八重樫 理人(香川大学)の3名の共同実践者を含む。

付記2

本実践は JSPS 科研費 JP26370612, JP15K02627, JP16H03436 の助成を受けたものである。

【引用文献】

佐々木良造・吹原豊・助川泰彦・Ni Nengah Suartini・八重樫理人(2016)「言語的弱者の在日外国人家庭に対する高校進学情報支援の試み」2016年日本語教育国際研究大会 <https://goo.gl/kZSyeV>

吹原豊・助川泰彦(2012)「茨城県東茨城郡大洗町で就労するインドネシア人移住労働者の生活と日本語習得の実態調査」『福岡女子大学国際文理学部紀要国際社会研究』Vol.1, p43-55